

令和2年度

竜王町社会福祉協議会

事業計画書

社会福祉法人 竜王町社会福祉協議会

## 令和2年度事業方針

### 【はじめに】

人口減少と少子高齢化の進行が、核家族化やプライバシー保護意識の高まりとともに地域に大きな影響を及ぼしています。本町においても地域社会や家族のあり方が大きく変わり、社会的孤立をはじめ様々な生活課題を抱える方が増加しています。

国は、地域住民の主体的な取り組みによる「地域共生社会」の提言をはじめ、人々の生活を支える基盤は「より身近な地域で」という明確な方針を打ち出しています。

このような中、本会は地域福祉コーディネーターの配置を活かして地域へ出向くアウトリーチを強化し、地域と顔の見える関係を構築する中でコミュニティカフェの広がりや子育て世代のボランティア人材の育成など、住民主体の地域福祉活動の推進に努めてまいりました。

今年度はこれらの手法を継承しつつ、防災・減災の観点から喫緊の課題である災害時の支え合い活動のしくみづくりと平常時の見守り・生活支援を両輪とした「近助事業」の推進を切り口に、各自治会や関係団体等と連携・協働して第3期地域福祉活動計画2年目の事業を展開します。

本町では自治会ごとに福祉委員会が組織され、多くの住民の主体的な参加により、子育て支援から高齢者サロンまでそれぞれ身近な地域の福祉・生活課題に沿った小地域福祉活動が展開されています。

これからの「地域福祉」は様々な地域生活課題について、福祉の中だけで解決しようとするのではなく、産・学・官の幅広い分野・関係者との連携を進め、「福祉を通して地域を活性化していく」という積極的な発想が必要です。この視点を大切に社協職員としての専門性を発揮し、地域住民の自主的で持続可能な活動を支える地域のネットワークづくりに取り組み、竜王ならではの「地域共生社会」の実現をめざします。

令和元年度は、会長の交代、第3次地域福祉活動計画のスタート、地域力強化推進事業の受託等、本会にとって大きな転換点の入り口に立った年でした。これらを受け、今年度は組織体制を新たに、役職員が一丸となって事業を推進いたします。

本会は、今後も社会福祉協議会としての公共性、公平性、民間性を発揮し、竜王町の住民福祉の向上に努めてまいります。

以下、取り組みの重点について述べます。

## 【取り組みの重点】

### 1. ボランティア活動や町民活動を活発化し、ボランティア活動のきっかけづくりや多様なボランティア活動の推進に取り組みます。

日常の中でできるちょっとしたボランティアとして「ちょボラ活動」を推奨し、身近な地域で、みんなができることをお互いに役立て、助けたり、助けられたりする地域づくりを目指します。

また、生涯現役事業とも連携し、見学・体験を通して、シニア世代が活動のきっかけを見つけ、楽しみや生きがいを持って取り組める活動を推進します。

### 2. 住民相互の地域での見守り・支え合い活動の充実を図り、防犯・防災等の安全なまちづくりを推進します。

有事の際に住民同士で助けあえるよう、住民相互の声かけ・見守り活動など日頃の活動を通じた仕組みづくりとして近助事業を推進します。

募集して選定した自治会において、重点的に関わりながら地域性を生かした取り組み方法を話し合い、安心・安全な地域づくりを進めます。

### 3. 住民、福祉関係団体、行政関係機関など多様な主体と連携し、地域福祉のネットワークづくりの充実を図ります。

福祉課題を把握するために地域訪問を行い、福祉関係者と連携しながら住民同士の主体的な支え合いを促進します。

複合的・多様な福祉ニーズに対応できるよう、社会福祉法人と連携し、公益的取り組みを推進します。また、地域と行政や福祉関係機関等を結ぶ幅広いネットワークづくりを推進します。

### 4. 小さい頃から他者に対する理解や思いやりの心を育みあえるよう、児童・生徒への福祉学習を推進します。

子どもたちが小さい頃から、地域のさまざまな人とのかかわりの中で、思いやりの心や相互に助けあう意識を育めるよう、家庭や地域、企業や商店、福祉施設が連携し、ふれあい交流の場・体験の機会を提供します。

また、教育委員会や学校、行政関係課と連携した系統的な福祉学習を推進し、中学校においては、昨年度までの啓発授業をさらに発展させ、福祉委員会と交流を図りながら、それぞれが住む地域に目を向けた福祉活動が展開できるようステップアップを図ります。

### 5. 行政関係機関や成年後見サポートセンターと連携し、権利擁護支援の充実を図ります。

高齢化や一人暮らし高齢者の増加、障がい者の地域生活移行などにより、支援のニーズはますます増加傾向にあります。こうしたニーズに対し、専門性の高い支援を提供できるよう定期的に職員のスキルアップ研修を行うとともに、事例検討会を開催するなど、職員の資質の向上に努めます。

また、それぞれの状況に合わせた適切な支援が受けられるよう、行政や成年後見サポートセンターE-SORAなどの関係機関と連携を図り、成年後見制度へのスムーズな移行を図ります。

### 6. ひきこもりの状態など生活のしづらさのある方が社会参加しやすい環境づくりの充実や支援体制の構築を進めます。

ひきこもり状態にある方など社会的自立が困難な状況にある方々が、自立した生活を送っていただけるようステップアップしてくための体制づくりに努めます。

また、各関係機関と連携し、それぞれの専門性を活かしながら支援を行います。

## 事業実施計画

### 1. 法人組織・事務局機能の強化

#### □ 法人運営機能の充実・強化

事業	実施計画	事業内容
(1)理事会	年6回程度	業務執行上の事項及び当面する課題について審議し、その企画立案を行う。
(2)評議員会	年2回程度	運営管理上の重要事項及び業務執行上の基本方針について審議、議決を行う。
(3)監事会	随時	運営管理、事業の執行状況及び財産の状況等について監査を行う。
(4)会長・副会長 等三役会議	随時	業務執行上の事項及び運営管理上の事項についての方向性を検討する。
(5)部門間調整 会議	随時	各部署の近況報告及び当該職間の意思疎通の下、当面する課題について協議・検討する。
(6)財務管理	年間	税理士との委託契約により年3回監査指導・助言を受け、財務管理の透明性を確保する。

#### □ 部会・委員会機能の充実・強化

事業	実施計画	事業内容
(1)法人運営部会	随時	法人の経営方針、組織の充実及び事業財源の安定化・拡大等検討し理事会に提言する。
(2)地域福祉推進部会	随時	地域福祉事業の充実・強化のための方向性を示し、本会が推進する事業の評価または将来的な展望等を理事会に提言する。 地域福祉懇談会等の開催に向けての調整。 地域福祉活動計画の進行管理にかかる提言。
(3)在宅福祉事業部会	随時	介護及び介護予防を目的とする事業の充実・強化のための方向性を示し、本会が実施する在宅福祉サービス事業の評価や将来的な展望等を理事会に提言する。
(4)広報部会	発行につき 1回程度	「福祉りゅうおう」発行の企画編集をし、社協の事業活動の紹介や情報の提供を通して地域住民の福祉意識の啓発を図るとともに、社協諸事業の説明責任を果たす。
(5)各種委員会	随時	個別事業の充実・強化のために、具体的な推進手段の検討や当該事業の評価、将来的な展望等を会長に提言する。 ◆ボランティアセンター運営委員会 ◆善意銀行運営委員会

□ 役職員研修会の実施

事業	実施計画	事業内容
(1) 役員研修	随 時	滋賀県社会福祉協議会や同会長会等が主催する社協役員研修などに参加し、役職員の研鑽に努める。
(2) 職員内部研修会の実施	1 回/3 ヶ月程度	職員が輪番で講師を経験する内部研修会を実施することにより本会職員としての自覚の醸成を図る。また、適宜、外部より講師を招くなど、職員の資質向上を目指す。
(3) 局内会議の実施	月 5 回程度	定期的に局内会議（事業進捗会議、ヘルパー会議、地域シェア会議）を実施することにより、細やかに事業の遂行状況の把握や評価を行うとともに、職員の主体性を促し責任を持って事業に取り組む姿勢を助長する。
(4) 研修会への参加	随 時	滋賀県社会福祉協議会等が開催する社協職員研修などに積極的に参加し、県内他市町職員との交流と研鑽に努める。

2. 安定した事業財源の確保

□ 会員会費の拡充

事業	実施計画	事業内容
(1) 一般（世帯）会員の加入促進	4 月	自治会の協力のもと、世帯1,000円の一般会員の募集を行い、事業財源の確保と地域福祉活動の充実を目指す。 区（自治会）長会へ役職員が出席し、実施趣旨を説明のうえ、理解と協力をいただくことに努める。
(2) 賛助会員の加入促進	5 月～ （10月強化月）	企業、商店、個人のご賛同頂ける方に対し、郵送での協力依頼のほか、役職員が計画的な連携のもとで全町的な協力依頼を行い、事業財源の確保に努める。また、新規参入企業様に対しての賛助会員加入推進を図る。

□ 事業財源の募集

事業	実施計画	事業内容
(1) 助成金の活用	随 時	助成金申請を積極的に行い、新たな財源の確保に努める。
(2) 広報広告募集	随 時	広報広告の募集など、新たな財源の確保に努める。
(3) 入れ歯リサイクル事業	年 間	不要になった入れ歯を町内の歯科・病院などで回収していただきリサイクル業者に依頼し金属の部分を精製し収益を得る。収益の一部はユニセフに寄附される。

## □善意銀行の管理・運営

事業	実施計画	事業内容
(1) 善意銀行運営委員会の開催	随時	寄附金の管理と目的に沿った使途及び必要時の地域福祉推進活動者への預託金払出しのための審議。
(2) 災害時等の支援に要する費用の管理	年間	災害時に備えた費用の準備と必要時の活用。

## 3. 地域福祉活動計画の進行管理

事業	実施計画	事業内容
活動計画の進行管理	年間	<p>今年度で2年目となる第3期地域福祉活動計画（5ヵ年）の地域への周知に努めると共に、地域の皆さまの理解と積極的な参加により、活動の具現化に努める。</p> <p>実施にあたっては、社協の基盤強化を図りつつ、現状と社会情勢を踏まえたうえで取り組む。</p> <p>地域福祉推進部会において計画内容の実施状況の確認、実施内容の評価を行う。</p>

## 4. 地域づくり

## □ 小地域福祉活動の推進

事業	実施計画	事業内容
(1) 小地域支援合いの「近助」体制づくり	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>「近助事業」についての説明会を実施し、取組み地区を募集する。</li> <li>小地域における災害要配慮者支援体制の仕組みづくりを町福祉課、未来創造課や生活安全課と連携して支援し、その活動を通じた日頃の見守り支援合い活動を促進する。併せて、「助けられ上手講座」を開催し、遠慮なく「助けて」といえるよう啓発する。</li> </ul>
(2) 福祉委員会活動への支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動メニューの提示、運営支援により活動の継続を図る。</li> <li>福祉の町づくり運動推進地区助成金を活用し福祉委員会活動を推進する。</li> </ul>
	11～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同募金地域配分金等を活用し小地域福祉活動へ助成する。</li> <li>歳末たすけあい募金を活用し小地域ふれあい活動を推進する。</li> </ul>
	随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他の民間助成金の案内などを行う。</li> <li>福祉委員が安心して活動頂けるよう福祉委員活動の取り組み内容や福祉の町づくり運動推進地区助成金の申請等について説明を行う。</li> </ul>

(3) 福祉関係三者研修	8月頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の福祉委員の交流や情報交換を目的に交流会を開催する。</li> </ul>
	2回程度/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくしだより」を発行し、滋賀県社会福祉協議会や町などが主催する各種研修会の情報提供や、地域でのホットな活動の発信を行う。</li> </ul>
(4) 地域福祉ブロック別懇談会の実施	1回/年 (5月中頃)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の小地域福祉活動の推進者である自治会長、福祉委員、民生委員児童委員の方々をはじめ、福祉委員会構成員が協力して取り組みを進められるよう、三者が揃って話し合える研修の場を設ける。</li> </ul>
	9～10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉活動の取り組みに参考となる情報提供と合わせ、各地区の福祉委員会、福祉関係委員同士の交流の場を設け、地域同士の情報交換や福祉課題を共有し、地域自身の課題解決力の向上を図る。</li> </ul>
(5) 居場所づくりの支援	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の人たちが誰でも交流できる、地域の「縁側」のような居場所づくりを支援する。</li> </ul>
	随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンやコミュニティカフェ等の交流活動の立上げ希望に対する立上げを支援する。</li> <li>・小地域でのサロン等の交流活動、介護予防活動、コミュニティカフェ等の担い手同士の交流会を実施し、活動の活性化や運営上の課題解決を支援する。</li> </ul>
(6) 物品の貸し出し	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修用機材の整備、貸し出し、レクリエーション用品・イベント用品の貸し出しおよびそれらを管理する。</li> </ul>
(7) 見守り配食事業	5回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの協力による温もりのある季節ごとの手作りお弁当を一人暮らし高齢者の方へ配食することを通じ、民生委員児童委員と連携して心身の変化などの実態把握を行い、必要時、関係機関につなぐ・連携するなど支援につなげる。</li> </ul>
(8) 地域カルテを活用した支援	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会ごとの人口動向、福祉の取り組み、福祉委員会等の活動組織・人材など、小地域の福祉活動状況について、前年度の情報を更新し整理する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテの内容は、地域福祉コーディネーターが中心となり実態把握を行い、町福祉課と連携して作成し、福祉活動等の地域課題の抽出を行う。</li> </ul>
(9) 職員のスキルアップと情報共有のための学習会や会議の開催	2回/週	<p>定期的に事例検討会を開催するとともに、定期的な会議を開催することで、情報の共有を行い、社協全体で課題解決に向けた体制づくりを目指す。</p>



□ 地域福祉コーディネーターの設置・充実

地域福祉コーディネーターは、地域での福祉課題に対し地域の関係者と専門職で連携を図りながら解決策を考えていくための重要なつなぎ役を担う。

事業	実施計画	事業内容
(1) 課題への早期対応・予防	年間	地域住民や福祉関係者が困りごとについて、適切な相談窓口機関へスムーズにつながるよう支援する。
(2) アウトリーチによる相談支援体制の強化	年間	地域に出向き、地域住民との関係を築き、制度の狭間で困難さを抱えたり、支援につながりにくいケースをキャッチし、生活支援コーディネーターや社協の地区担当職員、民生委員児童委員さんなどと連携を図りながら、課題の解決に努める。
(3) 住民主体活動の支援	随時	福祉委員会の活動について停滞している地区へ重点的に働きかけ、福祉委員会活動の活性化を図る。
(4) 社会福祉法人の公益的取組に向けた活動	年間	福祉のまちづくりのキーパーソンとなる人材の発掘。住民主体活動の芽生えや発展への支援。ちよボラの啓発。参考となる取り組みを他地域に紹介し、地域を越えた活動者のつながり、連携への支援を行う。
(5) 企業・商店等とつながる仕組みづくり	年間	地域での支えあいの仕組みづくりをサポートする。
		社会福祉法人が連携し、それぞれの立場から、課題や情報を出し合い共有し、地域福祉の推進のため、それぞれができること、連携してできることなどを考え、実行できるよう、情報交換や連携体制づくりに向けた関係者の集まりを定期的に持つ。
		生活支援コーディネーターと連携し、企業・商店を対象に定期的に連携会議を開催し、企業・商店と連携しながら、高齢者を支える仕組み、体制をつくる。

## 5. 地域を支える人づくり

□ ボランティアセンター機能の充実

事業	実施計画	事業内容
(1) センター機能の強化	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアセンターとして、日常的なボランティアニーズの発掘・相談・登録・斡旋に加え、連絡調整機能を果たす。</li> <li>・ボランティアの発掘・ボランティア活動の啓発を行う。</li> <li>・ボランティアの組織化（グループ化）への取り組み</li> <li>・NPO法人との連携・支援、他機関との連携。</li> </ul>
(2) ボランティア活動の啓発	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所前に設置したボランティアコーナー（掲示板）や広報紙、町公民館に設置してある「社協常設展示コーナー」、ホームページを活用や社会福祉大会で身近なボランティア活動の情報提供や啓発を行う。</li> <li>・ボランティア保険の加入促進を図ったり、加入手続き支援を行ったり、活発なボランティア活動を支援する。</li> </ul>



(3)福祉学習の推進	随時 4回／年 随 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会や学校、中学校福祉委員会と福祉学習の協議を行う。</li> <li>・市内の小学校に対し、関係機関と連携して福祉体験の指導や講義などで総合学習における支援を行う。</li> <li>・福祉体験学習では、車椅子体験・高齢者擬似体験・点字体験などを行い、時代に即した魅力ある研修会や講座を企画する。</li> <li>・中学校では、昨年度までの啓発授業に加え、それぞれの生徒が自身の住む地区への活動に参加、協力できるよう福祉委員会と交流を深め、情報共有しながら今後の活動の推進について話し合う。</li> </ul>
(4)プチどら★に こにこプロジェクト	2回／月	<p>未就園児と保護者が高齢者施設訪問を実施。幼い頃から福祉体験や高齢者の生きがいづくりに貢献し、同じ子育て世代の仲間づくりや社会参加を体験することで、多くの人と共に育ちあい福祉の心を育む。</p>
(5)福祉講座・研修会の企画運営	年 間  随時 随時 随時 6月 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会・講座を通して、ボランティアの育成に努め、ボランティア人口の増加につなげる</li> </ul> <p>〔開催講座等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア出前講座</li> <li>・ちょボラについて</li> <li>・各種ボランティア講座</li> <li>・レクリエーション交流会</li> <li>・ボランティアの交流新年会</li> </ul>
(6)シニア世代の 地域活動への 参加の推進	10月頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯現役事業と連携してシニア世代にアプローチし、福祉先進地区への視察研修の実施や、仲間づくりの企画、異世代間の交流などを行う。</li> </ul>
(7)災害時ボランティアセンターの体制作り		<p>竜王町生活安全課と連携し、竜王町防災計画を基に災害時の支援マニュアルを基に訓練を実施し、災害時ボランティアセンターの体制作りを行う。</p>

## 6. 仲間づくり・生きがいづくり

### □ 各種サロン・講座の開催

事 業	実施計画	事 業 内 容
(1)生涯現役事業 「いつまでも元気クラブ」	年間	<p>鏡・弓削・鶴川ふれあいプラザで概ね60歳以上の方を対象に、介護予防を目的として生涯学習や趣味活動、健康維持、仲間づくり、ボランティアなど様々な活動を開催する。</p> <p>各地区でのおたっしゃ教室やカフェでの活動紹介のチラシの配布や竜王町福祉課や健康推進課などによるPR活動に協賛し実施する。</p> <p>老人クラブへの参加の呼びかけをし、多数の参加を募る。</p>

(2)いきいき趣味活動（高齢者趣味活動）	各講座 1回／月 程度	ふれあいプラザにおいて、カラオケ・健康料理・書道教室・編物手芸教室など各種講座を実施。 講座で制作した作品を文化祭や図書館等にて展示を行う。
(3)こどもひろば	5回／週	未就園児とその保護者を対象に、親子の交流や各講座を通じて子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援し、地域の方々との交流を深めながら活動する。 ・常設ひろばを開設し、子育て家庭の親と子どもが気軽に集え、相互に交流を図る場を提供する。 ・子育てや子育て支援に関する講座を開き、子どもの健やかな育ちを促進する。 ・学年別ひろばを開催し、子どもの横のつながりやその保護者の交流を図る。 ・子育て中の保護者を対象に、子育てに参考となる講演会を開催する。 ・月一回、講師を招いてクッキングを開催し、食育についての興味や関心を高める機会を取り入れる。
(4)シニア世代の地域活動への参加の推進と介護予防の取り組み	4回	シニア世代にアプローチし、福祉先進地区への視察研修の実施や、仲間づくりの企画、異世代間の交流などを行い、様々な活動を企画・運営・参加いただくことで、要介護状態になることを予防する。

□ 当事者団体への支援

事業	実施計画	事業内容
(1)当事者団体支援	年間	団体事務の補助・自立に向けての支援。 各種事業への参加・協力。団体運営の支援。 資金の助成。 【主な団体】 ＊ 視覚障害者友の会 ＊ 母子福祉のぞみ会 ＊ 手をつなぐ育成会
(2)一人暮らし高齢者支援事業	2回／年	6月…交流会      12月…クリスマス会 ボランティア等に余興をお願いし、食事を摂りながら交流を深めていただく。（共同募金の配分金を活用。）

## 7. 主体的な活動への支援

☐ 福祉活動団体への助成

事業	実施計画	事業内容
(1)福祉団体への支援	随時 随時	自主的に福祉活動を行う福祉団体からの申請に基づき、運営費の一部を助成する。 町内の小・中学校を対象に福祉教育活動に対する助成を行う。

## 8. 相談・支援事業の充実

☐ 定期相談の継続・専門相談の充実

事業	実施計画	事業内容
(1)心配ごと相談所の開設	3回/月 4回/年	町勤労福祉会館にて、月3回、定期的に開設する。 専門の相談員が土地や借金、債務、暮らしの様々な相談に応じ、必要に応じ弁護士等につなぐ。 弁護士による無料相談会を実施する。 広報紙等により事業内容や日程を周知する。
(2)生活困窮者自立相談支援事業		地域内で課題となっているケースの把握に努め、対象者の実態把握を行う。 民生委員児童委員や関係機関等との連携により対象となるケースを把握する。
①対象者の発見	随時	社協の他事業・他部門と連携し、各制度での対応が困難な相談ケースについて、本事業での対応を図る。
②相談受付	随時	町福祉課やその他の関係機関と連携し、生活困窮に関する相談に対し協働して対応し、本事業のスムーズな運営を図る。 地域の福祉関係者からの情報に基づき出張相談を行う。
③自立相談支援の実施	随時	相談者が抱える課題を把握し、その置かれている状況や本人の意思を確認することを通じ一人ひとりの課題に応じた支援計画を作成する。
④就労支援への橋渡し	随時	ハローワークや就労準備支援事業実施事業所との連携 県健康福祉事務所との連携により中間的就労支援事業所の開拓を図る。
⑤事業の啓発		社協広報での事業周知や民児協定例会や福祉委員研修、地域福祉懇談会など福祉関係者の集まる場で事業啓発を行う。
(3)社会参加の支援	随時	ひきこもり検討会に出席し、ひきこもり状態にある方を受けとめる体制や支援連携体制の構築に向けた協議を行う。 竜王町発達支援課・健康推進課と連携してひきこもりの人の理解を広げる啓発を行う。 社会参加に課題がある人を対象とした就労や社会体験の場を提供する。また、就労や社会体験の場を受入れてくださる事業所の開拓を図る。
(4)多機関との協働		行政や関係機関と連携した多面的な支援を進める。

□ 福祉サービスの実施および利用支援

事業	実施計画	事業内容
(1)生活福祉資金貸付制度の利用支援	年間	<p>低所得世帯等の自立更生を助長するため、制度の利用窓口としての役割を果たす。</p> <p>①総合支援資金 失業者等、日常生活全般が困難な方に、継続的な相談援助と生活費等の一時的資金の貸付利用支援などの自立支援の実施</p> <p>②福祉資金 低所得者等に対し、一時的に必要な経費を貸付ける。 ・福祉費…住宅増改築・福祉用具の購入などの経費としての資金の貸付 ・緊急小口資金…緊急的かつ一時的に生計の維持が困難となった低所得世帯を対象に資金の貸付</p> <p>③教育支援資金 低所得者等に対して、入学・就学するために必要な経費等を貸し付ける。 総合支援資金および緊急小口資金の貸付については、相談者の生活が、より自立に向けた促進が図れるものとなるよう生活困窮者自立相談支援事業と連携する。 アセスメントシートの活用。 償還が滞っている借受世帯への相談機能の充実。</p>
(2)日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）による支援	年間	<p>判断面で日常生活に不安のある高齢者や障がいのある方等を対象に、他職種との連携を図りながら日常生活での困りごとなど生活全般に対する相談に応じるとともに、生活費のお届けや福祉サービス・行政手続きを本人と同行あるいは代行することにより、利用者の自立を支える支援を行う。</p> <p>総合的な支援が求められる相談が増え、利用者数の増加で個々への対応回数が著しく増加していることや、その支援内容が複雑かつ困難化してきていることもあり、引き続き生活支援員の補充・育成に努める。</p> <p>また、相談から契約へのスムーズな対応を図り、契約待機者が生まれないようにする。</p>
(3)成年後見制度への移行支援	必要時  必要時	<p>日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）で対応が困難になってきたケースは、適切な時期に成年後見制度へと移行できるよう支援する。</p> <p>行政（福祉課）や成年後見サポートセンターE-SORAとの成年後見移行会議を行う。</p>

## 9. 調査・広報活動の充実

### □ 調査活動

事業	実施計画	事業内容
(1)要援護世帯の把握と対応	年間	訪問介護事業、民生委員児童委員、福祉委員等からの情報収集。 自立相談支援事業からのニーズの発見。 地域福祉コーディネーターによる情報収集。
(2)一人暮らし高齢者・高齢者のみ世帯等の把握		見守り配食事業による一人暮らし高齢者の状況の把握。 歳末たすけあい事業おせち料理宅配助成を通じた把握。
(3)地域のニーズの把握		「ニーズ発見ノート」の活用…職員が常に携帯し、常にアンテナを立てて、情報の収集に努める。

### □ 広報活動

事業	実施計画	事業内容
(1)「福祉りゅうおう」の発行	4回／年	本会の収支状況をはじめ、地域福祉推進活動の発信を行う。 また、事業の協力依頼や各種講座の受講者募集のほか、団体・グループ・当事者の幅広い福祉活動の紹介等を行う。 「ボランティア通信」「いつまでも元気クラブ」に関する情報も掲載する。
(2)ふくしだよりの発行	2回程度／年	小地域の福祉委員会活動の様子や住民の声など、福祉委員会活動に役立つ情報を発信する。
(3)こどもひろば便りの発行	随時	こどもひろば便り「どらんちゅ」を活用し、子供達の紹介や事業の近況報告、お知らせなどを掲載する。 参加者の募集や月間の予定をお知らせし、事業への参加者を拡大する。
(4)プラザだよりの発行	毎月	鏡・弓削・鶴川ふれあいプラザで実施している「いつまでも元気クラブ」（生涯現役事業）の介護予防事業や「いきいき趣味活動」による仲間づくりなどの情報を「プラザだより」として毎月発行し、高齢者の健康維持に役立てて頂くため、多数の参加者を募る。
(5)ホームページやSNSによる情報発信	年間	ホームページを活用して、地域福祉活動の啓発を図るとともに、住民が円滑に社協の福祉サービスや地域福祉関連の助成制度を利用できるように情報提供や様式のダウンロード環境を整える。 また、地域の活動情報・子育てグループの活動など、様々な活動を紹介・情報発信していく。

(6) 医療機関のTVスライドを通した事業紹介 (7) 公民館の掲示板の活用	年 間	LINE@やフェイスブック等のSNSを使用し、社協事業やこともひろばの月間の予定の公開・タイムリーな情報や子育て情報等の発信を行う。
	年 間	近隣医院の待合室に設置した広告用TVを活用し、社会福祉協議会の事業紹介や、参加者募集などを行う。
	年 間	公民館の交電フロアに常設の展示コーナーを設置し、事業の紹介・参加者の募集・講座の案内などを行う。

## 10. その他

### ☐ 関係機関との連携・支援

事業	実施計画	事業内容
(1)関係機関との連携	年 間	行政関係機関、福祉関係施設・団体との連携 諸事業への参加協力・活動費等支援
(2)事務局支援	年 間	事務局の運営、または運営補助 事業の実施・協力・助成金支援 【事務局を預かっている団体】 * 竜王町共同募金委員会 * 日本赤十字社竜王町分区 * 遺族会 * 護国社奉賛会 * 民生委員児童委員協議会

### ☐ その他の事業、啓発活動等の実施

事業	実施計画	事業内容
(1)共同募金運動の推進	年 間	募金活動の推進（再掲） 配分活動の実施 要援護世帯支援、小地域ふれあい事業、福祉関係団体への事業助成。
(2)社会を明るくする運動	7月	社会を明るくする運動・青少年健全育成活動への協力。 のぼり旗、ポスターの掲示等啓発活動の実施。
(3)平和祈念事業	8／1	戦没者の慰霊と恒久平和の実現のため、竜王町平和祈念式に協力する。
(4)社会福祉大会の開催	11／23	ボランティア等に企画運営に協力していただき、住民が主体的に参加する福祉大会を目指す。 社会福祉の向上に寄与された方々の表彰等を行う。 小地域福祉活動で活躍している方たちの活動発表。 地域福祉の推進を図るための講演会の実施。



## 11. 在宅福祉サービスの充実

### ☐ 介護サービス事業所の運営

事業	実施計画	事業内容
(1)訪問介護事業	年 間	要介護状態の利用者の方が、安心して在宅での生活が継続できるよう、身体介護・生活介護・通院介助サービスの提供を行う。特に、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加・障害者の地域移行が進む中、社協の地域福祉権利擁護事業等との連携を図りながら、安心して在宅生活を送って頂けるよう努める。
(2)介護予防・日常生活支援総合事業	年 間	専門的なサービスを必要とする要支援状態の利用者の方が自立した生活を送れるよう、身体介護・生活介護サービスの提供を行う。
(3)介護保険外サービス事業	年 間	介護保険制度の対象サービス（訪問介護事業）で対応出来ない方の介護サービスの提供を行う。
(4)外出支援サービスの実施	年 間	介護保険サービス以外に、外出手段のない一人暮らし高齢者・障がいのある方を対象に比較的割安な料金で外出支援を行う。
(5)利用者負担減免の実施	随 時	介護保険等サービス利用者で低所得世帯の方に対して利用料金の一部負担を行うことにより利用を支援する。

### ☐ 障害福祉サービスの実施

事業	実施計画	事業内容
(1)居宅介護事業	年 間	障害者総合支援法による、身体介護・家事援助などの訪問介護サービスを提供する。
(2)重度訪問介護事業	年 間	常時、介護が必要な障害児・者に対して、継続的なサービスを提供する。
(3)同行援護	年 間	視覚障害者の方の外出支援、移動支援を行う。
(4)地域支援事業	年 間	町の地域支援事業による、移動サービスを提供する。
(5)社会参加促進事業	年 間	タクシー運賃助成券の利用により、社会参加を促進する。

### ☐ 車椅子の貸し出し

事業	実施計画	事業内容
(1)福祉用具貸与事業	年 間	在宅生活において、車椅子が必要な方に対して無料で貸し出しする。 福祉用具の在庫管理・メンテナンス等



## 12. 介護予防への取り組み

### □ 介護予防拠点施設の管理・運営

事業	実施計画	事業内容
(1) プラザの管理	年 間	鏡・弓削・鶴川の3ふれあいプラザを町からの指定管理者制度により管理を行う。 カーペットの清掃、消防点検等は、専門業者へ委託する。
(2) プラザの運営	年 間	介護予防・地域交流・ボランティアの活動場所として運営していく。
① 生涯現役事業		「いつまでも元気クラブ」（生涯現役事業）の実施。 町から介護予防事業として委託を受けている生涯現役事業については、鶴川、弓削、鏡ふれあいプラザを会場に、概ね60歳以上の方を対象に多様な活動を開催する。
② いきいき趣味活動		「いきいき趣味活動」（高齢者趣味活動）の実施 高齢者自らが寄り集い、講座を通じて交流を深めあい、地域に持ち帰って地域の仲間づくりへと発展していける講座の開催に努める。
③ こどもひろばの開催	4回/月	鏡ふれあいプラザで学年別ひろば、ふれあいクッキングを開催する。
	2~3回/月	弓削ふれあいプラザで出張ひろばを開催する。
④ ニーズ調査の実施	年 間	広く介護予防のあり方について意見を聴取する。
(3) 貸し館事業	年 間	地域の方々にもご利用いただけるよう、地域が行う介護予防を目的とした事業等に対して、プラザの貸し館（要予約・有料）を行う。

